

# BUSINESS REPORT



株主の皆さまへ 第105期報告書

2014年12月1日から2015年11月30日まで

キーワードで知る津田駒

**P9**

**2,105rpm**

ジェットルーム史上最高回転数2,105rpm（1分間に2,105本のヨコ糸を挿入）の安定稼動を実現。

津田駒工業株式会社



代表取締役会長 菱沼捷二 (右)  
代表取締役社長 高納伸宏 (左)

## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、誠にありがとうございます。ここに第105期報告書をお届けするにあたり、ひと言ご挨拶を申し上げます。

当社は、2015年2月に発足した新経営体制のもと、近年の業績低迷からの脱却を目指し、事業構造改革を推進しております。当期の営業状況は、第1四半期において前期の市況低迷による影響が続き、大きく落ち込んだものの、第2四半期以降は回復傾向を示しました。しかしながら、中国経済の減速等を受けて事業環境が悪化したことから、第1四半期の落ち込みをカバーするには至りませんでした。この結果、当期の連結業績は、遺憾ながら前期に引き続き赤字決算となりました。また、当期の利益配当金につきましても、誠に遺憾ながら見送りとさせていただきます。株主の皆さまに多くのご心配、ご迷惑をお掛けし、心よりお詫びいたします。

第106期から「強い津田駒の復活」を掲げた2カ年中期経営計画を始動し、早急な業績回復と成長性の確保に向けて、全社的な体質転換を推進してまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続き当社事業へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長  
高納 伸宏  
(たかの のぶひろ)

## 利益体質への転換と安定成長に向けて 2カ年中期経営計画をスタートしました。

工作機械関連事業は、スマートフォン等を製造する中国EMS（電子機器の受託製造サービス）向けのNC円テーブルが好調でしたが、第3四半期以降は、受注がストップしました。国内では、大手自動車メーカー向けの工作機械にボールドライブ駆動新型傾斜テーブルの採用が決まりました。これは第4四半期からの受注であるため、今後の業績への貢献を見込んでおります。

**Q** 当期（2015年11月期）を振り返り、営業状況を総括願います。

**A** 全体的に回復を示したものの、中国の低迷が影響し、黒字転換に至りませんでした。

全体的には、前期の低調から第2四半期以降は回復に向かい、単体決算では営業利益・経常利益の黒字を確保することができました。しかし、中国経済の減速による影響が予想以上に大きく、中国事業を含む連結決算においては、営業利益段階からの損失を余儀なくされました。また、中国事業の減損処理を行ったことにより、単体で12億円、連結で58百万円の特別損失が発生しました。その結果、当期の連結業績は、受注高40,443百万円（前期比31.6%増加）、売上高36,916百万円（同比6.3%増加）、営業損失274百万円（前期は営業損失1,207百万円）、経常損失381百万円（前期は経常損失1,161百万円）、当期純損失443百万円（前期は当期純損失1,263百万円）となりました。

事業別に振り返ると、繊維機械事業は、主力市場である中国向けの販売が第2四半期から回復に転じましたが、第4四半期には再びスローダウンしました。その一方で当期は、インドにおける販売が大きく伸び、中国の低調をカバーする形となりました。繊維機械は、総じて回復傾向を示しており、当事業に含まれるコンポジット機械も、新モデルが内外の展示会で高評価をいただき、多くの引き合いにつながりました。今後の成長が期待できる分野として、引き続き自動化技術の開発に注力し、炭素繊維の用途拡大と市場形成に貢献してまいります。

**Q** 当期の取り組みにおいて、どのような成果がありましたか？

**A** 各事業ともに積極的な製品開発と市場投入を進め、市場の高い評価を受けています。

当期は、製品開発面に着実な進展があった1年間であり、繊維機械・工作機械関連ともに、製品の高機能化・高性能化における大きなステップアップを果たしました。次のステップとして、生産効率の向上とコストダウンを図り、商品化につなげてまいります。

繊維機械では、エアジェットルームの新モデル「ZAX9200iMASTER」を市場に投入した他、2015年11月にイタリア・ミラノ市で開催された国際繊維機械展示会「ITMA2015」では、当社が出品した次世代コンセプトモデルがジェットルーム史上最高回転数となる2,105rpm（1分間に2,105本のヨコ糸挿入）を記録し、高い評価をいただきました。

工作機械関連では、独自開発のボールドライブ駆動方式を採用した新型傾斜テーブル「TBS-160」を発売しました。この発売により当社は、NC円テーブルにおいてボールドライブ/ダイレクトドライブ/ウォームホイールの3つの駆動方式を持つ唯一のメーカーとなりました。「TBS-160」は、2015年10月にイタリア・ミラノ市で開催された「EMO2015」、名古屋市で開催された「メカトロテック2015」の2つの国際工作機械展でも大きな反響を呼びました。

## トップインタビュー

当社は、こうした製品開発を通じて、お客さまの生産性改善や省エネ・省人化の促進、加工精度の向上等に寄与し、信頼関係をベースとしたシェアの獲得につなげています。

一方、新分野であるコンポジット機械では、CFRP（炭素繊維複合材）用自動積層機の最新モデル「TAL-MUD」が、各方面から注目をいただき、特に航空機業界や自動車業界での本格採用に向けて手応えを感じています。製品ラインアップの充実と高評価の獲得により、収益化への準備が整った状況と言えるでしょう。

**Q** 航空機関連事業の新たな展開についてお聞かせください。

**A** コンポジット機械から部品加工受託、大型搬送装置へ。安定収益の確保を目指します。

当社は、国内で唯一のコンポジット機械メーカーとして、その開発・製造を担っています。現在、国内航空機関連メーカーにCFRP用自動積層機およびスリッター（カーボンプリ

プレグのスリット加工機）を納入しており、引き続き注文をいただいています。これらの受注計画により、コンポジット機械については、2017年11月期を目処に事業化を果たせるものと見ています。

さらに、コンポジット機械の納入実績を活かした新たな事業展開として2015年7月、航空機部品の機械加工を受注し、納品を開始しました。当社にとって、受託部品加工は初めての参入であり、航空宇宙産業の品質マネジメントシステム規格「EN9100」を取得した野々市工場（石川県）の既存設備で加工を行っています。この新規参入により、収益の多様化・安定化を図るだけでなく、航空機部品の高度な加工技術を吸収し、当社製品の生産性向上やコストダウンに応用してまいりたいと思います。

また当期は、子会社の共和電機工業株式会社と共同で、航空機部材加工の大規模な段取りシステムを受注いたしました。

こうした取り組みを通じて、長期的かつ安定的な成長性が見込める航空機市場において、当社独自の技術力を発揮し、安定収益の確保につなげていきます。

**Q** 中長期の成長戦略をご説明願います。

**A** 2ヵ年中期経営計画を始動。早期に業績を回復し、利益体質への転換を図ります。

当社は、中長期の成長に向けて2016-2017年2ヵ年中期経営計画を策定し、始動しました。本計画は「全社一丸 新たな創生 強い津田駒の復活」をスローガンに掲げ、利益体質への転換を進めて、2017年11月期の連結業績における「営業利益率6%（売上高500億円・営業利益30億円）」の達成を目指します。

現在の主力事業である繊維機械事業については、引き続き当社の得意分野としてシェアを維持し、独創的な技術・製品を市場に提供していくことで売上を伸ばしていきます。同時に、高い精度が要求される工作機械関連事業において、新製品の開発と市場投入を一層強化し、将来的には繊維機械事業と同比率まで売上割合を高め、利益重視の経営に転



ITMA2015当社小間

### 連結業績ハイライト

受注高

**40,443**百万円  
(前期30,724百万円)

売上高

**36,916**百万円  
(前期34,735百万円)

営業損失(△)

**△274**百万円  
(前期△1,207百万円)

換したいと考えています。そしてコンポジット機械は、先に述べたように航空機分野における取り組みから、さらには自動車分野等への展開を目指し、利益貢献を果たします。

また当社は現在、収益改善に向けて「30%のコストダウン」を全社目標に掲げ、根本的な原価低減および効率化を進めています。繊維機械の生産ラインにおいては、月産台数の平準化を図り、ムダのない生産体制の構築を進めております。さらに部品の共通化等、技術・開発から設計、調達、加工・生産に至るまで、あらゆるプロセスにおいてコストダウンを追求して原価低減を図っています。

同時に、積極的な設備投資により省エネ・省人化を図って生産の効率化を進めるとともに、航空機部品加工など、新たな取り組みへの対応を推進いたします。

一方、中国事業は、従来手掛けていた繊維機械の組立・販売に加え、工作機械関連機器の組立サービスにも事業を拡大してまいります。

本計画の完遂に向けて、当社は今後の市場変化を的確に捉えながら営業の強化に努め、生産体制の拡充を図るべく、必要な設備投資を実施していく予定です。

## Q 2016年度の展望はいかがでしょうか？

A 増収・黒字回復を予想しています。

足もとの状況として、繊維機械事業では中国は一時的な落ち込みがありますがものの、インドの好調やアジア新興市場の成長が売上を押し上げていくと見えています。中国市場については、価格優先から品質重視への変化が期待され、また中国資本によるベトナムや中央アジアへの投資も増加傾向にあることから、当社の営業展開においては、そうした動きを十分注視しながら対応を進めていきます。

工作機械関連事業は、自動車メーカー向けの受注増加により、工場はフル稼働の状況にあります。短納期の要求に効率的に対応し、売上の拡大と利益確保に努めてまいります。また、航空機や自動車、医療機器関連といった好調分野をターゲットに、欧米およびアジアにおける海外市場の

拡大を捉えるべく、営業を強化していく考えです。以上を前提として、今期の連結業績予想は、売上高41,000百万円、営業利益400百万円、経常利益300百万円、当期純利益200百万円と、増収・黒字回復を見込んでいます。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A 他に真似のできない技術を武器に、成長性の高い市場にアプローチしていきます。

当期の取り組みにより、各事業において製品ラインアップの充実を果たし、当社は「強い津田駒の復活」に向けて準備を整えた状況にあります。今後2年間は、中期経営計画の着実な遂行を通じて、新たな事業構造の基礎を作り上げ、利益体質への転換を図ってまいります。

他に真似のできない技術を武器に、当社がアプローチしていく市場は、いずれも高い成長性が見込める分野です。株主の皆さまにおかれましては、その将来性にご期待いただき、当社事業への長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



経常損失(△)

△**381**百万円  
(前期△1,161百万円)

当期純損失(△)

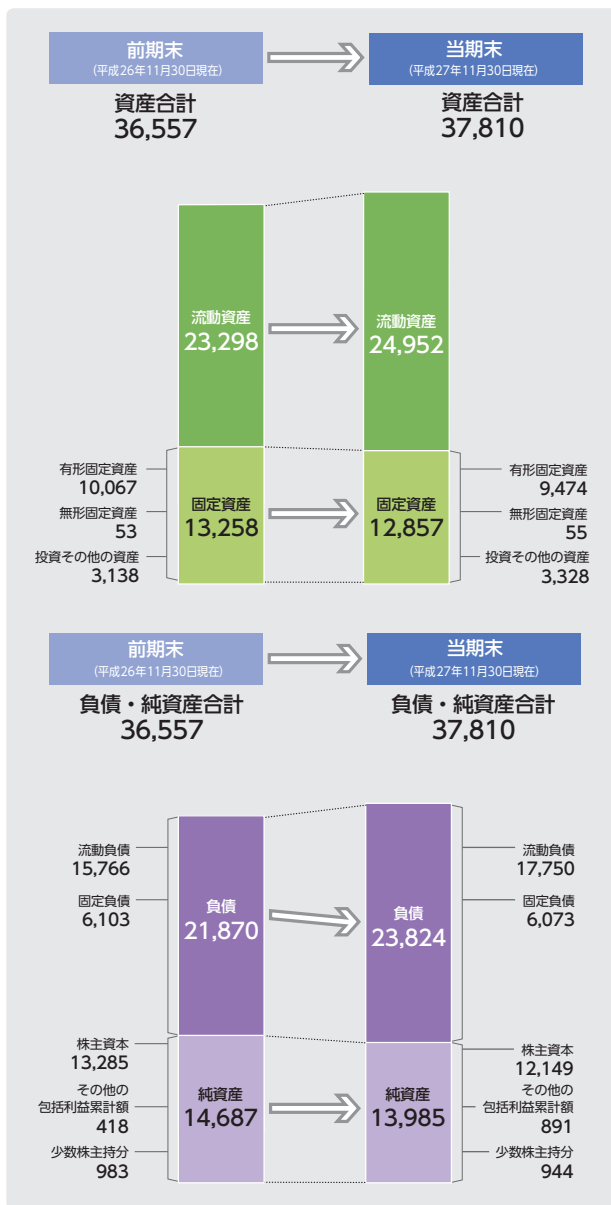
△**443**百万円  
(前期△1,263百万円)

1株当たり当期純損失(△)

△**6.93**円  
(前期△19.77円)

# 連結財務データ

## 連結貸借対照表 (単位：百万円)



科目	前期 平成26年11月30日現在	当期 平成27年11月30日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	23,298	24,952
固定資産	13,258	12,857
有形固定資産	10,067	9,474
無形固定資産	53	55
投資その他の資産	3,138	3,328
<b>資産合計</b>	<b>36,557</b>	<b>37,810</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債	15,766	17,750
固定負債	6,103	6,073
<b>負債合計</b>	<b>21,870</b>	<b>23,824</b>
<b>純資産の部</b>		
株主資本	13,285	12,149
その他の包括利益累計額	418	891
少数株主持分	983	944
<b>純資産合計</b>	<b>14,687</b>	<b>13,985</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>36,557</b>	<b>37,810</b>

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結損益計算書 (単位: 百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成25年12月 1日から 平成26年 11月30日まで	平成26年12月 1日から 平成27年 11月30日まで
売上高	34,735	36,916
営業損失 (△)	△ 1,207	△ 274
経常損失 (△)	△ 1,161	△ 381
税金等調整前当期純損失 (△)	△ 1,151	△ 444
少数株主損益調整前当期純損失 (△)	△ 1,287	△ 481
当期純損失 (△)	△ 1,263	△ 443

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

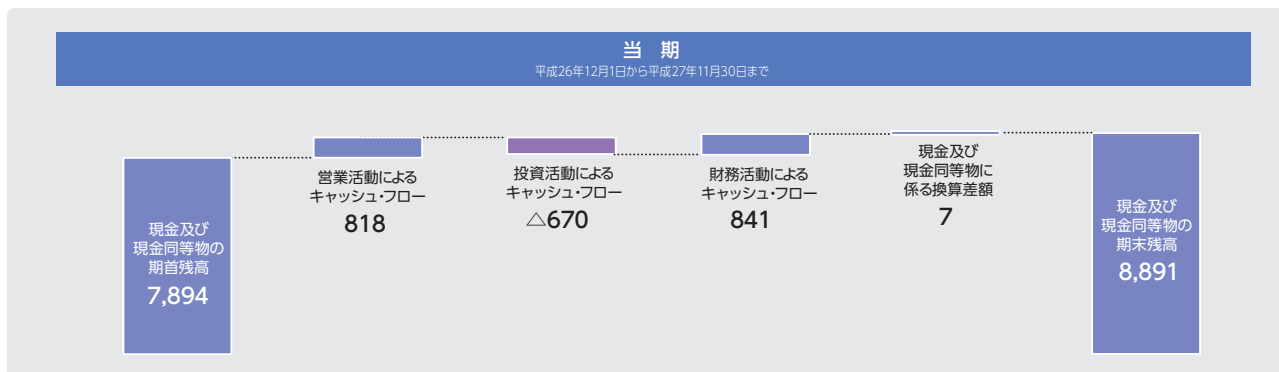
## 財務のポイント

**資産、負債及び純資産の状況** … 当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,253百万円増加し37,810百万円となりました。主な増減は、借入金への導入により現金及び預金が増加したことや生産の増加によりたな卸資産が増加したこと等によるものであります。負債は、前連結会計年度末に比べ1,954百万円増加し23,824百万円となりました。主な増減は、借入金の導入による増加等によるものであります。純資産は、当期純損失443百万円を計上したこと等から前連結会計年度末に比べ701百万円減少し13,985百万円となり、自己資本比率は34.5%となりました。

**損益の状況** … 繊維機械事業では中心市場であります中国市場では、期初には回復の兆しが見られましたが第3四半期以降、経済の減速感が強まり、繊維産業の設備投資が低迷いたしました。工作機械関連事業では、国内の工作機械業界や自動車産業の回復、政府の補助金を活用した設備投資などに牽引されて、概ね堅調に推移いたしました。

全体としては、第1四半期は大きく落ち込みましたものの、第2四半期以降は受注・売上ともに回復し、単体ベースでは、営業利益・経常利益で黒字を確保しました。しかし、連結ベースでは、中国子会社の不振もあり、受注高40,443百万円(前期比31.6%増加)、売上高36,916百万円(同比6.3%増加)、営業損失274百万円(前期 営業損失1,207百万円)、経常損失381百万円(前期 経常損失1,161百万円)、当期純損失443百万円(前期 当期純損失1,263百万円)と誠に遺憾ながら損失計上を余儀なくされました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位: 百万円)



# 事業別の状況

## 繊維機械事業



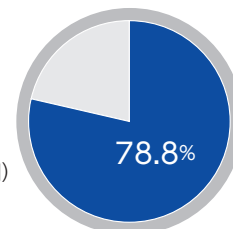
エアジェットルーム

受注高 32,543 百万円 (前期比41.0%増加)

売上高 29,092 百万円 (前期比7.3%増加)

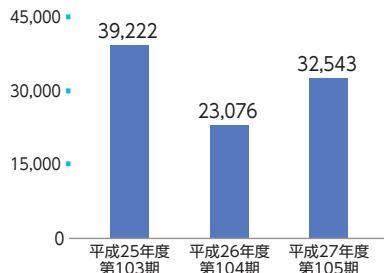
営業利益 65 百万円 (前期は営業損失523百万円)

売上高構成比



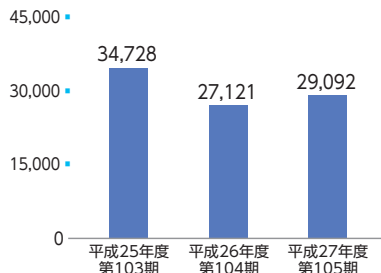
受注高

(単位:百万円)



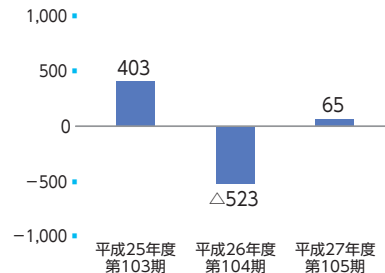
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



## ツダコマの主な製品

### 繊維機械

#### エアジェットルーム・ウォータージェットルーム

水や空気の噴射力を使ってヨコ糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネや省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。



新型エアジェットルーム ZAX9200iMASTER JAQ仕様



## 工作機械関連事業



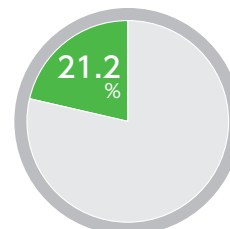
NC円テーブル

受注高 **7,900** 百万円 (前期比3.3%増加)

売上高 **7,824** 百万円 (前期比2.8%増加)

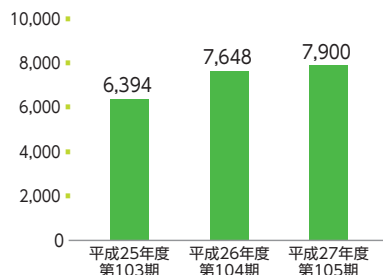
営業利益 **643** 百万円 (前期比71.4%増加)

売上高構成比



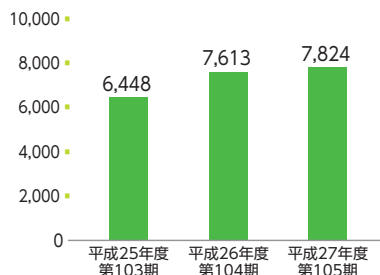
受注高

(単位:百万円)



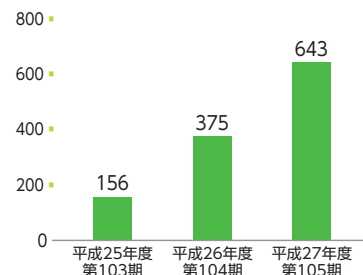
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)



### 工作機械関連

#### NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

人気の携帯電話から航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。

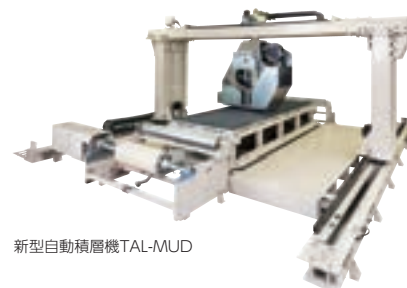


新型ボールドライブ駆動  
傾斜NC円テーブルTBS-160

### コンポジット機械

#### 炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機TAL-MUD



キーワードで知る津田駒

# 「2,105rpm」

繊維機械、工作機械アタッチメントの分野では世界屈指のメーカーとなり、グローバル展開している津田駒。このページでは津田駒をより知っていただくために、キーワードをもとに、歴史や特長を紹介させていただきます。

1分間に2,105本のヨコ糸を挿入しながら、高品質織物を安定して織りこなす。当社は、昨年11月にミラノ市で開催されました国際繊維機械展示会ITMA2015で、夢のような世界記録を実現しました。

「史上最高回転数による“超”高生産性、高品質な織物を驚くべき速さで」をコンセプトに、当社は、同国際繊維機械展示会にコンセプトモデルを出品し、ジェットルーム史上最高回転数2,105回転での安定稼動を実演、来場された世界のお客さまの度肝を抜きました。会場では、織機上に表示された回転数「2,105rpm」のモニターを背景に記念写真を撮るお

客さまもいらっしやるほどの賑わいでした。

また、新型エアジェットルームZAX9200iMASTERを出品し、織り幅340cmの広幅で、8ノズル（ヨコ糸8色使い）のジャガード織りという製織難易度の高い高級カーテン布を850rpmの高速で稼動実演しました。

ジェットルームの最大の特長は、高速回転による高い生産性と安定品質です。加えて近年は高い省エネルギー性能や省人力機能が求められます。ITMA2015では、こうした世界の市場のお客さまの要求に確実に応えし、高い評価をいただきました。



2,105rpmを実現したコンセプト機



## 会社概要

本社所在地 〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号  
 設立 昭和14年12月30日（創業 明治42年3月）

資本金 123億1,654万円  
 従業員 943名

### 役員状況（平成28年2月末日現在）

代表取締役会長	菱 沼 捷 二	
代表取締役社長	高 納 伸 宏	工作機械関連事業担当、コンポジット事業担当
取締役	諏 訪 満	新製品推進室担当、共和電機工業株式会社担当
取締役	松 任 宏 幸	総務部門担当、総務部長、知財・情報管理部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司担当、津田駒機械製造（常熟）有限公司担当、株式会社T-Tech Japan 代表取締役、津田駒機械設備（上海）有限公司 董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司 董事長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED 代表取締役、ひあみ-ゆつぐま株式会社 代表取締役
取締役	山 田 茂 生	繊維機械事業担当
取締役	北 野 浩 司	製造部門担当、品質保証部長
取締役（非常勤）	越 馬 進 治	
常勤監査役	竹 中 隆 一	
常勤監査役	橋 本 谷 徹 進 隆	
監査役	澁 谷 政 隆	（澁谷工業株式会社 取締役副会長）
監査役	梶 政 隆	（カジナイロン株式会社 代表取締役社長）
執行役員	松 本 勝 仁	工機販売部長
執行役員	坂 井 一 充	コンポジット機械部長
執行役員	大 森 俊 和	工機技術部長
執行役員	浅 井 俊 和	製造第1部長、製造第2部長
執行役員	室 井 哲 也	生産技術部長
執行役員	長 谷 博 史	調達部長
顧問	竹 鼻 達 夫	
顧問	西 野 順 一	

\*取締役 越馬進治は社外取締役です。

\*監査役 澁谷 進及び梶 政隆は社外監査役です。

## 株式の概況（平成27年11月30日現在）

### 株式の状況

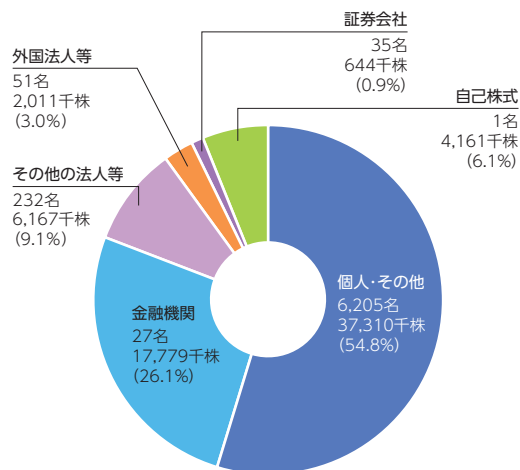
①発行可能株式総数	199,003,000株
②発行済株式の総数	68,075,552株
（内自己株式の数）	（4,161,951株）
③単元株式数	1,000株
④株主数	6,551名

### 大株主の状況

株 主 名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	9,210
明治安田生命保険相互会社	3,509
株式会社北陸銀行	2,580
株式会社北國銀行	2,320
三井住友海上火災保険株式会社	1,785
東京海上日動火災保険株式会社	1,775
ツグコマ従業員持株会	1,695
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,144
西田博崇	1,050
丸紅株式会社	1,023

（注）当社の保有する自己株式4,161千株は上記表には含んでおりません。

### 株式の分布状況



（カッコ内は持株比率）



## 株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120-782-031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国 各支店で行っております。

ホームページのご案内

<http://www.tsudakoma.co.jp/>